

無料レポート

ジム・ロジャース講演会 最新スピーチ骨子

世界を知る冒険投資家が語る当面の投資戦略

作成: フロイデビューロー

【目次】

第1章 冒険旅行から帰って

第2章 当面の投資戦略

第3章 投資スタンスについて

第4章 質疑応答より

解題

はじめに

本レポートは2006年2月7日「金融財務研究会」主催「ジム・ロジャース講演会」よりスピーチ骨子をレポートにまとめたものです。メモも録音も一切取らず会場で聞いたスピーチを記憶し後日私が自分の言葉で記録した物であり著作権は私に属していると理解します。

1. 本レポートに含まれる情報は著作権法によって保護されています。
2. 本レポートの無断転用、並びに転載を禁じます。本文中の文章を引用する場合は本レポートと作者名を必ず銘記して下さい。

2006年2月9日
フロイデビューロー
三田芳夫

第1章 冒険旅行から帰って

- 自分は冒険旅行家である。最近3年（1999年~2002年）を掛けて116ヶ国245,000をめぐりドライブ紀行から帰ってきた。
- 現場主義が自分のモットーで自分の目で確かめ自分の頭で考える事が自分の投資のスタンスである。
- 紛争が続いている国や地域も多く世界全体が熱狂のうずの中にあるようだ。
- 最も注目している地域は中国だ。中国の持つ潜在的エネルギーは凄まじい。
- 中国人は我々アメリカ人よりも資本主義的な考えを持っている。
- 例えばアメリカ人が収入の中で投資に費やすパーセンテージは平均で5-6%だが中国人は30%以上投資に廻す。
- 今後10年の内に世界第2の経済大国にのし上がるだろう。アメリカ人より資本主義的な経済大国の台頭だ。
- 私は娘（まだ2歳）にも中国語を習わせている。聴衆の皆様も子供や孫には中国語を習わせるといいと思う。中国語は最も重要な言語となる可能性が高い。
- 海外債務が8兆ドルを超える米国の通貨米ドルは世界の準備通貨としての地位を失い始めている。
- 21世紀は中国の時代となるだろう。

第2章 当面の投資戦略

- 現在世界中で物 (commodity) が足りなくなっている。特に新興諸国、とりわけ中国だ。
- 需要と供給のバランスが極端に崩れているのは商品 (commodity) だ。だから私は商品 (commodity) に投資をする。
- 中国が欲しがっている物は何か？ 椅子や机や洋服は中国は我々よりも安く作ってしまう。足りないのは原油、ニッケルなどの原材料だ。これらは中国は自分で作れない。
- 原油は高騰が続いている。英国はつい最近まで原油輸出国だったが輸入国に変わっている。中国もそうだ。
- 世界中で需要が供給を上回っている商品 (commodity) に私は投資をする。
- 代表的な株価指数である S&P500 と商品指数 Rogers Int' Commodity Index、そして世界物価指数 LT Indx のこの数年の推移を見てみると明らかだ。
- 1998年7月を基点とすると2006年1月までに株価指数は28.1%、商品指数は253.2%、消費者物価指数は67.6%伸びた。
- 物価指数と商品指数の伸びが大きく取り分け商品指数の驚異的な成長が目立つ。
- この期間に2001年には商品指数も調整している。同時多発テロの影響だ。それ以外は一本調子で成長が続いている。

- この良好なパフォーマンスは 2014 年から 2020 年のどこかまで続くと予測している。
- 過去の経験則から商品の上昇相場は 15 年から 23 年は持続しているという事実が有る。
- 原油の高騰は続くだろう。25 年間主要石油輸出国で有った英国は輸入国に転落する。マレーシアや中国もそうだ。
- 上昇相場は続き石油その他原材料は高い水準に留まるだろう。

第3章 投資スタンスについて

- 商品への長期投資が当面の投資スタンスだ。
- 商品の投資は株式に比べてシンプルで予測がし易い。
- 株式の場合、上場企業は何千社も有り、それぞれの企業の業績や収益、そして労使関係を一々チェックするのは大変な労力を要するが、商品は上場されている 20 数品目をチェックするだけで十分だ。
- 更に商品の場合予測が非常に楽だ。需給のバランスだけを見ていればいい。
- 需要が供給を上回れば値段が上がり、その逆は値段が下がる。それだけだ。
- 株式の場合、たとえその会社が素晴らしい商品を開発したとしてもその商品がヒットするかどうかを予測する事は非常に難しい。
- しかし私が商品投資を勧めると大多数の人は当惑する。商品の投資経験が無いからだ。投資と言えば株式なのだ。
- しかし株式投資がこれだけポピュラーになったのはこの 60 年位だ。それ以前は商品投資が普及していた。

第4章 質疑応答より

Q 商品が有望だと分かったが商品に投資をすべきか？商品を扱っている企業の株を買うべきか？

A 商品を扱う企業の株を買うべきではない。商品を扱う企業は何十社も有る。どれを選ぶか又チェックが必要だ。また企業は倒産もする。エネルギーを扱っていたエンロンがその代表的な例だ。

Q 世界中の株高が続いているがどう見ているか？

A 分からない。お分かりならそっと教えて欲しい。私は米国株は買わないし、持っていない。日本株は持っているし、まだ売るつもりは無い。ただ新たに買うつもりは今は無い。

Q オーストラリア、ニュージーランド、カナダドルを持っているがどう思うか？

A 有望だと思う。私も持っている。

Q 投資のコツを教えて欲しい。

A 安い時に買って高くなったら売ればいい(笑)。夜はぐっすり眠れるようにする事だ。宿題(Homework)はきっちり自分でこなす。

Q 中国投資についてアドバイスが欲しい。

A 中国人が欲しいものを買うといい。先程言った原油、ニッケル、その他の商品(commodity)だ。それと貴方に子供や孫がいたら中国語を慣わせた方がいい。それが最良の投資だ(笑)。

解題

ご存知の方も多いと思うがジム・ロジャース氏は米国の著名投資家で同じく有名投資家ジョージ・ソロス氏と共にクオンタム・ファンドを立ち上げ10年間で4000%という驚異的な高収益を上げたことで知られる。

冒険家とも知られており「世界バイク紀行」や「世界大発見」の著作も有る。(どちらも日経文庫刊)。スピーチで言及している世界一周旅行の記録は「世界大発見」で読む事ができる。

1980年で現役を引退した時は一生冒険をして過ごしても余りある富を手にしていたという氏は正にアメリカンドリームの実現者だ。

スピーチの中では中国への高い評価が目立つ。中国人は最高の資本主義者だと言うコメントは同調できる。個人的な話で恐縮だが筆者は1昨年まで10年以上某アジア系政府機関の東京事務所次長として貿易促進事業に従事しており、その間中国人ビジネスマンを数多く見てきた。

正に生き馬の目を抜くようなシャープな商人気質を中国人ビジネスマンは持っていると感じている。そのような中国人が多数いる中国が今後世界経済の牽引役となるのは明らかだと思う。

一方、ジム・ロジャース氏の投資スタンスは商品の長期投資である。世界中で物 (commodity) が足りないのも商品に投資するというスタンスは明瞭で説得力が有る。

実際極めてシンプルで明瞭な理解をする人だという印象を持った。自分の目で確かめて自分の頭で考える。当たり前投資を行うだけだという印象である。

スピーチでは語らなかったが、前座として解説を行った立正大学経済学部教授の林庚史氏(日本でのジム・ロジャース氏の理解者)に

よると、氏は世界各国政府の公式発表などは一切信じていないと言う。

米国や日本政府の発表なども信じていないし、中国政府の発表などは尚更だと言う。全て自分で確かめないと気が済まないらしい。

林氏は更に冒険投資家のジム・ロジャース氏はインディ・ジョーンズに例えられるが、実像は刑事コロンボや古畑任三郎に近いらしい。

鋭い観察眼を持っていると言うことらしい。すなわち日常の小さな変化にいち早く気が付き仮説を立て類推して行くスタイルだと言う。

さて当無料レポートは皆さんの投資活動のお役に立てたでしょうか？

筆者は個人投資家ですが昨年12月から商品先物ならぬ日経225先物投資の情報商材をネット上で販売しています。

やはり効率を重視した単純で明瞭な投資スタンスを推奨しています。現在は日経225先物投資だけですが今後当レポートでジム・ロジャース氏が推奨している商品先物や日経225オプション等にも応用できるような投資法を開発していきたいと考えております。

興味ある方はぜひ当商材の販売サイトにアクセスして下さい。同様のメルマガも発行しています。

「簡単225でお気楽投資」

<http://kantan225.com>

「簡単225でお気楽投資 初心者でも勝率80%を狙います」

<http://www.mag2.com/m/0000177173.html>

2006年2月9日
フロイデビューロー
三田芳夫